

地方独立行政法人玉野医療センター
令和6年度の業務実績に関する評価結果

令和7年7月
玉野市

項目別評価 評価の基準

(地方独立行政法人玉野医療センター業務実績評価に係る実施要領より)

[小項目評価基準]

- 「5」：年度計画を大幅に上回って実施している。
- 「4」：年度計画を上回って実施している。
- 「3」：年度計画どおりに実施している。
- 「2」：年度計画を下回っている。
- 「1」：年度計画を大幅に下回っている、又は実施できていない。

[大項目評価基準]

- 「S」：中期目標・中期計画の実現に向けて著しく進捗している。
(小項目評価の平均点が4.5以上)
- 「A」：中期目標・中期計画の実現に向けて順調に進捗している。
(小項目評価の平均点が3.5以上4.5未満)
- 「B」：中期目標・中期計画の実現に向けておおむね順調に進捗している。
(小項目評価の平均点が2.5以上3.5未満)
- 「C」：中期目標・中期計画の実現のためにはやや遅れている。
(小項目評価の平均点が1.5以上2.5未満)
- 「D」：中期目標・中期計画の実現から大幅に遅れている。
(小項目評価の平均点が1.5未満)

地方独立行政法人玉野医療センター業務実績に関する評価結果

1. 全体評価

令和6年度の業務実績に関する評価結果は、「中期目標・中期計画の実現に向けておおむね順調に進捗している。」と評価する。

2. 評価の判断理由

第2から第4までの大項目で評価結果を「B」、第5を「A」とし、中期目標・中期計画の実現に向けて順調に進捗していると判断した。

大項目	評価
第2 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項	B
第3 業務運営の改善及び効率化に関する事項	B
第4 財務内容の改善に関する事項	B
第5 その他業務運営に関する重要事項	A

3. 評価にあたり考慮した事項

全体の評価にあたり特に考慮した事項は以下のとおりである。

- ① 法人による2病院での運営体制が4年目となる令和6年度は、救急医療の受け入れを積極的に推進し、平日時間帯の100%受け入れを目標に取り組むとともに、地域の医療機関との連携については、患者の紹介・逆紹介を推進することで、地域包括ケアシステムの円滑な運用に取り組んでいる。
- ② 小児医療については、岡山大学から非常勤の小児科医師2名の派遣が継続され、外来診療体制を維持している。
- ③ 医療従事者の確保・育成については、医師確保に取り組んだ結果、令和7年4月から岡山大学地域卒卒業の内科医師1名が派遣されることとなり、地域医療に貢献している。
- ④ 管理体制の強化と働きやすい職場環境の整備については、法人内部の例規で定めている内部統制委員会が設置できていないため、内部監査の実施内容も含めて早期に対応する必要があることに加えて、新病院開院に伴う業務量の増大から労働基準法の上限を超える時間外労働が多数の職員に発生したことから改善が必要である。
- ⑤ 令和6年度の経営については、収入面では新病院への移転のため入院・外来患者の受け入れの制限を実施したことに加え、費用面では新病院の建設費用の増加と移転費用の発生、物価上昇による医療材料費などの増加があったが、新病院への移転に伴う診療の制限と新病院建設費用の増加の影響を最小限に抑えることに努めている。

4. 全体評価にあたっての意見、指摘等

- ① 病床の逼迫により入院患者の受入ができなかった事例があったが、市内の病院の空き病床を活用できるような枠組みをつくることで、入院患者の受け入れを推進してもらいたい。
- ② 新病院統合・開院に伴って業務が増加したことで多数の職員に時間外労働が発生しているが、時間外労働の縮減に努めて働きやすい職場環境となるよう努めてもらいたい。2の評価が数年続いているものは、改善が見えない。
- ③ 患者のサービス向上に関する要望については真摯に検討をしてもらいたい。
- ④ 新病院については計画していた機能を備えた病院として開院しているが、今後は病院としての医療の質と内容の充実にさらに努めてもらいたい。

2. 項目別評価

(1) 大項目評価

第2 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

小項目		評価
1 担うべき医療提供体制	(1) 救急医療	3
	(2) 小児・周産期医療	4
	(3) リハビリテーション医療	3
	(4) 検診・予防医療	3
	(5) 在宅医療	3
	(6) 災害医療	3
	(7) 新たな感染症への対応	4
2 医療の質の向上	(1) 地域医療への貢献	4
	(2) 相乗効果の発揮	4
	(3) チーム医療の実施	3
	(4) 医療従事者の確保及び育成	4
	(5) 調査・研究・治験への取り組み	3
3 患者サービスの向上	(1) 患者中心の医療の提供	3
	(2) 地域との交流	3
	(3) 医療安全対策	3
	(4) 積極的な情報発信	4
	(5) コンプライアンスの徹底	2
4 医療機関との連携		3
5 関係機関との連携	(1) 行政機関との連携	4
	(2) 医師会等との連携	3
	(3) 教育機関との連携	3
平均		3.2

評価結果 B

判断理由

小項目21項目中20項目で3以上の評価とし、中期目標・中期計画の実現に向けて順調な進捗状況であるため、大項目の評価として「B」の評価が妥当であると判断した。

評価にあたり考慮した事項

法人による2病院での運営体制が4年目となる令和6年度は、救急医療の受け入れ

を積極的に推進し、平日時間帯の100%受け入れを目標に取り組むとともに、地域の医療機関との連携については、患者の紹介・逆紹介を推進することで、地域包括ケアシステムの円滑な運用に取り組んでいる。

小児医療については、岡山大学から非常勤の小児科医師2名の派遣が継続され、外来診療体制を維持している。

また、医療従事者の確保・育成については、医師確保に取り組んだ結果、令和7年4月から岡山大学地域卒の内科医師1名が派遣されることとなり、地域医療に貢献している。

2病院での職種ごとの人事交流等を実施し、新病院の内覧会を開催するなど計画的に準備を行い、新病院の統合・開院を実現した。

評価にあたっての意見、指摘等

- ① 病床の逼迫により入院患者の受入ができなかった事例があったが、市内の病院の空き病床を活用できるような枠組みをつくることで、入院患者の受け入れを推進してもらいたい。
- ② 医師の確保に加えて、医療従事者の研修を通じて医療の質の向上を目指してもらいたい。看護師やリハビリ従事者などの各資格職の具体的な研修・発表を示すと医療の質に関する取り組みがよく分かる。
- ③ 国保の特定健診について、事業の改善を実施しながら、件数増加に向けて取り組んでももらいたい。
- ④ 新たな感染症が発生した場合にも、感染対策について地域で中心的な役割を果たしてもらいたい。
- ⑤ 新病院統合・開院に伴って業務が増加したことで内部統制及び内部監査体制の整備ができていないが、早期に整備し、適切に業務を遂行してもらいたい。

第3 業務運営の改善及び効率化に関する事項

小項目		評価
1 業務運営体制の構築	(1) 運営体制	3
	(2) 管理体制の強化	2
	(3) 外部評価等の活用	3
2 職場環境の整備	(1) 働きやすい職場環境の整備	2
	(2) 職員の職務能力の向上	3
	(3) 効果的な人事・給与制度の構築	3
平均		2.6

評価結果 B

判断理由

小項目6項目中2項目で2としたものの、その他は全て3の評価とし、平均2.6であるため、大項目の評価として「B」の評価が妥当であると判断した。

評価にあたり考慮した事項

運営体制については、地方独立行政法人制度の特長である業務執行面での柔軟な経営が可能になる点を活かして、病院運営の課題について迅速な意思決定を行い機動的に対応を行っている。

また、職員の職務能力の向上については、市の出向職員から法人のプロパー職員への業務の引継ぎが進み、経営企画、経理などの法人運営に関する業務はプロパー職員が主要な役割を担っている。

内部統制については、法人内部の例規で定めている内部統制委員会が設置できていないため、内部監査の実施内容も含めて早期に対応する必要があることに加えて、新病院開院に伴う業務量の増大から労働基準法の上限を超える時間外労働が多数の職員に発生したことから改善が必要である。

評価にあたっての意見、指摘等

- ① 外部業者に病院のセキュリティ体制の評価を依頼することで患者情報を守るための体制が整備されていることを担保してはどうか。
- ② 新病院統合・開院に伴って業務が増加したことで多数の職員に時間外労働が発生しているが、時間外労働の縮減し、働きやすい職場環境となるよう努めてもらいたい。2の評価が数年続いているものは、改善が見えない。
- ③ 患者のサービス向上に関する要望については真摯に検討をしてもらいたい。

第4 財務内容の改善に関する事項

小項目		評価
1 経営基盤の確立		3
2 収入の確保と経費の節減	(1) 収入の確保	3
	(2) 経費の節減	3
3 運営費負担金		3
平均		3.0

評価結果 B

判断理由

小項目4項目中全ての項目で3以上の評価とし、中期目標・中期計画の実現に向けて順調な進捗状況であるため、大項目の評価として「B」の評価が妥当であると判断した。

評価にあたり考慮した事項

令和6年度の経営については、収入面では新病院への移転のため入院・外来患者の受け入れの制限を実施したことに加え、費用面では新病院の建設費用の増加と移転費用の発生、物価上昇による医療材料費などの増加があったが、新病院への移転に伴う診療の制限と新病院建設費用の増加の影響を最小限に抑えることに努めている。

今後の課題としては、病床稼働率を高位に維持すると入院患者数の大幅な増加は見込めないことから、収益の確保のためには外来・入院患者の診療単価の向上を図るための対応が必要となる。また、救急受入件数の増加に向けて効率的な病床運用を行う取り組みを継続し、救急受入病床の確保に努めることが求められる。

評価にあたっての意見、指摘等

- ① 新病院の建設費用や移転費用が計上されて、令和6年度は大幅な赤字の決算となったが、経常収支の黒字化に向けて収益の最大化と費用の最小化に取り組む必要がある。

第5 その他業務運営に関する重要事項

小項目	評価
1 新病院の整備	4
2 新病院への移行	4
平均	4.0

評価結果 A

判断理由

小項目2項目中全ての項目を4の評価とし、中期目標・中期計画の実現に向けて順調な進捗状況であるため、大項目の評価として「A」の評価が妥当であると判断した。

評価にあたり考慮した事項

新病院の整備については、患者の利便性に配慮しつつも、職員にとっても使いやすい施設となるよう詳細な協議をしながら、工期の遅れもなく着実に施設の竣工に至っている。

設計者、施工者と詳細な協議を行って費用の圧縮に努めながら、地域医療の中核を担う病院として必要な機能を備えた施設を整備したことを評価している。

新病院への移行については、専門コンサルティングの知見を活用しながら、医療機器や医療情報システムの調達を計画的に進め、新病院への移転について移転リハーサルを繰り返し行うなど入院患者を安全に移送するための準備を着実に実施し、令和7年1月に新病院への移行を完了している。

評価にあたっての意見、指摘等

- ① 新病院については計画していた機能を備えた病院として開院しているが、今後は病院としての医療の質と内容の充実にさらに努めてもらいたい。